

J3リーグ参入を果たした

地域サッカークラブのマネジメント

スポーツマネジメントゼミナール 1313048 永井 淳悟

1. 研究動機・研究目的

2014年にJ3リーグが開始した。このことを受け日本サッカー界のリーグの規模が拡大した。Jリーグの規模拡大の傾向を受け、下位カテゴリーで発足するチームが後を絶たない。しかし、これらのチームすべてがJリーグ入りすることは難しい。なぜならJリーグ入りを果たすためには乗り越えなければならない壁が多数存在するからである。現在、日本プロサッカーリーグの一番下のカテゴリーはJ3リーグである。つまり、J3リーグに参入することがJリーグ入り、プロサッカーリーグ入りすることだと考える。しかし、J3リーグに参入するには競技成績以外にも多数の条件があり、ただ競技成績上位を目指すチーム作りをしてもJリーグ参入という目標を達成することはできないのである。それでは、J3リーグ参入を果たしたチームは、以上の参入条件を満たすためにどのような計画を立案し実行してきたのか。また、具体的にはどのようなプロモーション・イベントを開催してきたのか、どのようなプロセスを踏んできたのか、これらを明らかにするために、この研究に着手する。本研究の目的は、J3リーグ初年度に加入をしたチームの歴史、および参入条件を満たすまでのプロセスやプロモーション・イベント内容を明らかにすることである。さらに、その明らかにした要素がどのような関係で影響しているかについての結果図を作成することでこれからJ3リーグ入りを目指すクラブに対しての指標となるものを作ることである。

2. 研究方法

【調査対象】J3リーグクラブ従事者

J3リーグ加盟クラブである3クラブの従事者4名、クラブA(A氏、B氏)、クラブB(C氏)、クラブC(D氏)

【調査期間】2016年6月15日～9月3日

【調査方法】1対1、または1対2による対面または電話によるインタビュー調査

【インタビュー内容】先行研究を基に新たな6つの質問項目を作成した。

- 1) 競技基準(スクール・ユースなど)についての質問
- 2) 施設基準(練習場所・ホームタウン・スタジアムなど)についての質問
- 3) 人事体制・組織運営基準(事務所・各人事など)についての質問
- 4) イベント・プロモーションについての質問
- 5) J理事会承認(スポンサー・集客など)についての質問
- 6) 計画立案などについての質問

【分析方法】木下による修正版グランデッド・セオリーアプローチ(Modified Grounded Theory Approach: 以下M-GTA)を援用した。

- 1) インタビューを文字化し、その文字化されたインタビューの内容は、質問内容ごとに

分類作業を行った。

2) 逐語化されたデータに着目し、分析テーマと関連性のある箇所に注目した。それらの箇所とそれ以外のデータを比較した上で類似するデータの有無を確認し、その解釈について一定の具体例が確認できたら「定義」と「概念名」をつけた。

3) それぞれの概念について他の概念との関係の一つずつ検討していき、いくつかの共通する概念からなるカテゴリーの生成を試みた。

4) 概念化、カテゴリー化した結果を、文献から情報を得て、同じ手順で分類作業を行った他組織と比較を行い、その分析結果を結果図としてまとめた。

3. 主な結果と考察

M-GTAによる分析から、6つのカテゴリー・グループ【競技基準、施設基準、人事体制・組織運営基準、イベント・プロモーション、J 理事会承認、計画立案】、13 のカテゴリー、173 の概念が生成され、その結果を基に結果図を作成した。その結果、クラブは様々な要素の行動を同時進行で行わなければならないと考えられる。J3ライセンス基準、スタジアム要件、J3入会審査を満たすための競技基準、人事・組織基準、施設基準は相互に影響し合っており、各要素への力の入れ方にはバランスが必要だ。また、各要素の中でもイベント・プロモーションの要素は各基準を満たすための要素を強化してくれる役割が備わっていると考えられ、全ての基準を底上げしてくれる重要な要素である。

4. 結論

J3リーグ所属クラブにおいて土地柄・特色・境遇などは各サッカークラブによって様々であるが、どのようなクラブであろうが地域の中にある様々なモノの中の1つにサッカークラブがあるのであり、目指しているところは地域貢献であるということがわかった。そして、J3リーグに昇格するためには地域との関係性はとても重要なポイントであることも判明した。地域との関係性強化によって様々な行動ができるようになる、つまり重要なのは地域に向けてどれだけの貢献を提供できるかということであり、それを地域に理解してもらうのが最高のマネジメントであり、J3リーグ参入の一番の近道なのだと考える。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を作成するにあたり、丁寧な指導をして下さった小笠原先生には深く感謝を致します。また、シーズン中でありお忙しい中でインタビュー調査に丁寧な御対応、御協力して下さいましたJ3リーグ所属クラブ3クラブ、従事者4名の方に深く感謝の意を表します。ありがとうございました。